

各界から
連帯・激励



正念場中の正念場を
むかえた二里塚・国鉄

第二部は青年部・杉本書記長の司会で始まり、連帯のあいさつが行われた。最初に、県労連の広田事務局長は「これからの厳しいぬかるみの道を家族ぐるみ、共闘の仲間とともに頑張って歩んでほしい」と述べられた。



つづいて、三里塚芝山連合空港反対同盟の北原事務局長、小川嘉吉さんが盛大な拍手の中を壇上にあがられ、北原事務局長より「八六年の動労千葉の闘いは、動労千葉と三里塚は二年前から共闘関係を結び、この道は誤っていないことが確信できた。八七年は互いに正念場をむかえ、労働者の魂、根性を示す年となる、共に闘おう」と訴えられた。そして、二期用地内の小川嘉吉さんは「権力は二期工事をやりだしたが、土地を売らない限りムダなことだ。動労千葉とともに勝利の日まで闘いぬく」と決意を示された。また、沖縄民権の会・古波津英興氏から「いま、沖縄に天皇・皇太子がのりこんでこようとしているがこれを許してはならない」と訴えた。



古波津英興氏

動労千葉の団結旗開きは、新たに加わった水戸、高崎の仲間をはじめ三八五名の結集をもって大成功をかちとった。第一部の中野委員長基調講演にひきつづき第二部では来賓の方々の連帯のあいさつ、動労水戸の仲間によるロック演奏が行われ、なかなか交歓の中にも八七年組織の存亡をかけた闘い、とりわけこの二カ月間全力で決起する決意を打ち固めた。



つづいて、動労千葉顧問弁護団の葉山岳夫・清井礼司両弁護士が決意を述べられた。そして、関西実行委を代表して、山本善偉氏は「中曽根の『戦後政治の総決算』攻撃のもとで、すべての労働組合が骨ぬきにされていく中で動労千葉を中心とした労働者の誇りたかき闘いがあるかぎり、かつての産業界国社会化され競争の中に入ってしまった状況には絶対ならないと信じている」と述べられた。そして、関西新空港に反対する泉佐野市議・国賀祥司氏は「年末の予算で関西や三里塚空港には運輸省要求を上回る予算をつける一方で大増税、福祉切り捨てをやる中曽根に住民の怒りは一杯だ」と訴えた。



また、東京実行委の長谷川英憲氏は、「動労千葉の闘い、この一点の火花が燎原を焼きつくすような時代がくる」とあいさつされた。

中曽根打倒へ

会場中央で中野委員長による鏡割りを行い、特執の中江昌夫船橋市議の音頭で乾杯し、本部書記局、津田沼支部有志による心づくしの料理をさかんに酒宴がはじまった。



市議選必勝を誓い合う、北原・中江両氏

数多く寄せられた檄電、メッセージが紹介された後、国労共闘を代表して国労東京・吉野元久氏より「動労千葉の闘いの成果の上に十月臨大勝利をもぎとり、中曽根の目論見を基本的に粉碎した。」

四月一日にむかって闘う旗を守りながら進撃する」と決意表明がなされた。さらに社会党の市川福平県議、小川義人・千葉市議、全金本山・長谷氏、婦人民主クラブよりあいさつをうけました。第二部のメイン、動労水戸の辻川委員長ほかからなるバンドによるロックミュージック演奏が熱気の中で行われた。



十七時前、まだ熱気もさめやらぬ中、山口副委員長の「水戸、高崎の仲間とともに旗開きの成功をかちとった。心をひとつにして中曽根打倒へ」と閉会のあいさつがなされた。そして、組合歌唱の後、最後に中野委員長の団結がんばろうをもって大成功のうちに終了した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！